

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の改善策等
1 総合学科の特長を活かし、GIGAスクール構想を踏まえた、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (f) よくあてはまる (i) ややあてはまる (g) あまりあてはまらない (j) あてはまらない  (f) + (i) の% 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D	生徒 85.9% B  保護者 90.4% A	1年次生は、卒業後の職業を視野に入れて、これからの自分の方向性を検討し、その上で本校の4系列【進学系列、スポーツ科学系列、地域産業系列、生活・福祉系列】の中から1つを選択した。進路志望と系列選択科目の内容との関わりについて、生徒や保護者に説明し、最終的に決定している。 2年次生は、保護者向け進路説明会を経て、最終的な進路目標の設定へ向かう予定である。 生徒全体の約85%が肯定的回答であった。学年別に見てみると、「あてはまる」と回答した1年次生は94%、2年次生で84%、3年次生で81%という結果であった。学年が進むにつれて、評価が低くなる傾向がある。全体指導の内容の改善と同時に、個に応じた指導や個別面談を充実させることによって、生徒の満足度を高めていきたい。
	② 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	94.7%  A	前期調査と比較して、「授業が分かりやすい」との回答は93.5%→94.7%とさらに向上した。これは前期調査のデータを元に全教科担当者が計画した授業改善のための方策の実践が奏功しているものと思われる。 また「授業のねらいや流れが示され、振り返りの時間がある」の問いについては、前期91.1%→93.3%の生徒が同様に肯定的な回答をしている。いずれもChromebookの利用が校内研究授業等を通して加速度的に広まったことで、より効率の良い授業の展開が可能になったことが一助となっている。
	③ GIGAスクール構想に則り、従来のICT活用に加え、Chromebookを活用した授業の在り方について研究を進める。	年に2回Chromebookを使って授業を行った教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	94.6%  A	対象教員37名中、12月までに2回以上Chromebookを使用した教員は35名でほぼ目標を達成することができた。 2学期以降は推進リーダーによるGIGA校内研修だけでなく、石川県教員総合研修センター講師を招聘したり、一人一台端末が整備されている辰口中学校へ全教員が授業参観に行くなどしたりした。校内での研究授業もChromebookを使用したものが主となり、参観した教員にとっては非常に参考になったと思われる。来年度は高校においても生徒一人一台となるので、これに備えた準備をさらに進めたい。
	④ 個別進学指導や朝学習（マナトレ）、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア 国公立大学進学者数 5名以上 イ 私立大学および看護・医療系上級学校進学者数 30名以上 ウ 就職内定率 100%  ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	ア 1名 イ 30名 ウ 100%  B	本年度もマナトレを継続しているが、年度末の級認定テストを実施した。その結果を昨年度と比較し、教科や分野別の得点率の分析を行う。また、級認定証を次年度の始めに配布し、新たな目標への動機づけとする。 3年次生については、毎週の補習を含め、放課後に残って自学自習をしている生徒も目立った。 最終的に、 ア. 国公立大学には1名が進学する。 イ. 私立大学へは29名が進学し、看護学校へ1名が進む。 ウ. 就職内定率は100%を達成している。 よって、二つの目標は達成したことになる。 例年、ウの就職達成率は100%を達成している。今年度は私立大学等への進学のイを達成することができたので、来年度はこれを継続しつつ、成績上位層の志望と学力を高めて、アの国公立大学進学者数も達成したい。
学校関係者評価委員会の評価	①授業評価アンケートの質問項目8つのうち「グループ活動や生徒の発表を取り入れている」と「ICTや学習教材を活用している」の2つについては否定的評価が10%を超えている。この2点における改善案を聞きたい。 ②国公立大学進学者数の目標値は5名以上となっている。1月末時点で、推薦で1名合格、一般入試の受検者数は3名とのことだが、1名足りないのはなぜか。 ③就職内定率は100%を達成したとのことだが、内定した生徒の就職先は第1志望だったのか。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	①現在Chromebookを授業で使ってみて、様々な教育効果が認められるが、そのうちの1つにJamboardの使用がある。これまで授業では発言する際に、挙手することをためらう生徒もいたが、Jamboardを使うことで、自分の意見や考えを言いやすくなったと感じる生徒が多い。来年度からは高校においても一人一台端末が整備される。Jamboardの使用を進めることによって、ご指摘の点は改善できると考える。 ②2年次当初から国公立大学を志望している生徒は4名であった。生徒の志望を高めることは大切なことであるので、1名上乗せを目指し5名としたが、増やすことはできなかった。今後も1年次から志望を高める指導は継続して行っていく。 ③生徒の就職の第1志望先が競合することはある。ただ今年度の内定就職先は、全員第2志望までにおさまっている。就職しても、自分の思いと合わずに、すぐに離職してしまえば、企業に迷惑をかけることになるので、第1志望、第2志望にかかわらず、面談を重ね、就業が継続するよう指導している。			

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の改善策等
2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に向いての活動等しっかりと挨拶ができるよう指導を行う。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が80%以上であるのが、生徒・保護者・教員のうち A 3者とも80%以上 B 2者が80%以上 C 1者のみ80%以上 D 全て80%未満	生徒 77.5% 保護者 83.0% 教員 79.5%  C	登校指導や街頭指導では、しっかりと挨拶できる生徒は少しずつ増えてきている。しかし、今年度もコロナ禍の影響で、生徒会や運動部による朝の挨拶運動が十分に実施できなかった。今回、Cという評価であったが、校舎内では部活動の生徒を中心に自発的に挨拶しており、他の生徒も教員が挨拶するとしっかり返してくれることがほとんどで、挨拶の習慣は浸透してきていると感じる。 集会やホームルームでの指導だけでなく、日常の様々な場面で、教職員から生徒に対して積極的に挨拶したりコミュニケーションを図ることによって、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、自ら進んで挨拶できるよう学校全体で取り組んでいく。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	交通ルールを守って自転車に乗車していると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	90.9%  A	今年度は、交通安全教室（1年次生）や自転車ルール・マナー検定の実施、本校イーグル隊と能美署・地域交通安全活動推進委員協議会が協力しての交通安全運動を実施した。また今年度から校内交通安全標語コンクールを実施し、優秀作品を校外に掲示するなど様々な機会をとらえ、交通安全に対する意識の醸成を図ってきた。 12月までの警察による交通違反指導件数は16件と昨年比2件減少している。自転車交通事故件数は昨年の8件と変わっていないが、自損事故が増加しており、不注意やスマホを使用しながらの走行が原因と考えられる。今回、評価はAであったが、今後も様々な機会を作り、交通安全に対する意識の醸成を図っていく必要がある。
	③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	71.8%  B	肯定的評価(A+B)の割合は1年次生で77.4%、2年次生で71.2%、3年次生で67.2%である。学年が上がるにつれ、数字が低下していくが、3年次生では部活動を引退し、2年次生では途中退部している生徒がいるからではないかと思われる。 やはり部活動に一生懸命取り組んでいる生徒が満足感や達成感を得ていると思われるので、部活動の加入率を上げるために、途中退部などの部活動にも所属していない生徒に声かけをしたり、新入生にも早くから積極的に部活動加入を促すなどしていきたい。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	97.4%  B	今年度は5件のいじめを認知した。昨年度に比べ3件増加したが、各分掌が連携し迅速に対応できた。現在のところ5件とも解決しているが、観察を行いながら注意深く見守っていく必要がある。 教員対象アンケート結果は、前期の92.3%よりも改善したが、100%に達しなかった。校務運営委員会や職員会議を通じて、職員がいじめ未然防止や情報共有について徹底を図る。 今後もいじめは必ずあるものと認識し、生徒への注意喚起を行うとともに、発生時には迅速かつ適切に対応する。
学校関係者評価委員会の評価	・いじめ問題の組織的対応に対する教員の評価が上がったことは良かった。今年度、5件のいじめを認知したとのことだが、教員が最初にいじめを発見することはあるのか。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた後の改善策	・いじめ問題の組織的対応に対する教員の肯定的評価は100%でなければならない。本校では、特に、情操教育や集会の場での「いじめの未然防止」に力を注いでいる。ただ、いじめの認知に関しては、SNSを使ったものが増えてきており、校内においてすぐにわかる場合はほとんどない。年3回のいじめアンケートや生徒からの報告・申し出によるものがほとんどである。担任による定期的な生徒面談だけでなく、様子がおかしいと感じた生徒に関しては、教員間での情報共有を密にして、いじめの未然防止や初期の段階での認知と対応を心掛けていきたい。			

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の改善策等
3 S C H（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地元自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	81.3%  A  肯定的評価 1年次生 90.4% 2年次生 78.3% 3年次生 77.3%	1年次生で90.4%と非常に評価が高い。これは4月と9月に実施した「寺高クリーンビーチ大作戦」（根上海岸の清掃活動）のためと思われる。2回の活動では、生徒は積極的に楽しみながら清掃活動を行っていた。ゴミの多かった海岸がきれいになっていくという過程が実感できたので、満足感が得られたのだと思う。今後はSDGsも意識して、自分たちの活動の成果が目に見えるようにしていきたい。 2, 3年次生はコロナ禍のため、なかなか活動ができない状況ではあるが、文化祭での地元商店とのコラボ弁当や、スイーツ販売などを通じて、さらに地元を意識して活動すれば、地域活動の満足感も得られるのではないかとと思われる。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	90.0%  A	前期と同じくA評価であり4ポイント上昇した。昨年度に各分掌の担当者がホームページの更新およびメール配信を直接行うことができるシステムが構築され、ホームページにおいては学年行事等の掲載や各部活動の活動紹介等についての情報発信が増えたことが要因の一つと考えられる。ホームページのアクセス数も高く関心の高さがうかがえる。今後もさらにきめ細やかなメール配信や、遅滞なき情報発信を行っていくとともに、ホームページ・メール配信を活用した配布物のペーパーレス化も行っていきたい。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	時間外勤務が月45時間以上であった教員の月平均人数が A 5人未満 B 10人未満 C 15人未満 D 15人以上	9.8人  B  4月～1月調査	今年度、時間外勤務が月45時間以上であった教員の数は、4月19人（1人）、5月18人（1人）、6月18人（21人）、7月11人（19人）、8月1人（4人）、9月8人（20人）、10月15人（17人）、11月14人（16人）、12月3人（9人）、1月4人（10人）、2月1人（5人）、3月6人（7人）であった（カッコ内は昨年同月の人数）。4月～3月までの1年間の累計者数は118名で、月平均では9.8人であった。 しかし、昨年度の4、5月は学校休業のため、6～3月の累計数を昨年度と比較してみると、128人→118人と減少した。また、教員アンケートで「以前に比べるとタイムマネジメントの意識が高まっている」との質問に肯定的回答をした教員は100%であった。 今年度は特定の教員に仕事が偏らないように主任は課員の仕事量に配慮し、時間外勤務が多い教員の仕事を他の課員に割り振るなどの対応を行った。 管理職は全教員が心身ともに健康な状態で教育活動を行えるよう、年次有給休暇を取りやすい雰囲気さをさらに醸成していく。
学校関係者評価委員会の評価	①「寺高クリーンビーチ大作戦」（根上海岸の清掃活動）はとても素晴らしい取り組みだと感じる。来年度も継続するのか。 ②ホームページの内容や更新回数が改善され、毎日1,000件以上のアクセスがあるとのことだが、生徒は学校からのお便りを親に見せていないこともあるのではないかと。その点に関してはどのように対処するのか。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた後の改善策	①「寺高クリーンビーチ大作戦」は今年度、1年次生が2回参加した。生徒の満足度の高かったため、来年度は学年を変えて取り組むことを考えている。また、実際におこなう清掃活動だけでなく、学習会に関しても、より充実した内容を計画していきたい。 ②学年通信などのお便りを出した際には、一斉配信メールでその旨保護者にお知らせしている。また、お便りそのものもホームページに必ず掲載するようにしている。			